

多面的な文化の違いについて

豊川勇貴

はじめに

日本から 9000km 以上も離れている異国の地、ドイツはアウクスブルクにおける 9 日間の研修は本当にあつという間で、学びが非常に多く有意義な時間となりました。そんな中で、ドイツと日本の間にはたくさんの文化的な違いや似ている点を発見しました。食文化、建築物、教育課程、人間性・特徴など、自分が感じたたくさんのことを簡潔にまとめていきたいと思います。



写真：アウクスブルク市街地のビール

FOODS

ビールやソーセージが有名なイメージのあるドイツでは、やはり、昼間から老若男女問わず大きなジョッキでビールを飲んでいる姿が見受けられました。ミュンヘンなどの都市部では、朝からマーケットに置か



写真：白ソーセージ「ヴァイスヴルスト」

れているテラス席などでのんびりお酒を楽しんでいる姿も印象的でした。ソーセージのサイズも、初めて見るような大きさのもので驚きました。特に、上の写真のソーセージは、バイエルン名物「ヴァイスヴルスト」という、茹でて食べるタイプの白ソーセージで、ドイツ発祥の焼き菓子「プレッツェル」と一緒に食べました。肉厚なのにさっぱりとしていて食べやすく、お土産としても購入しました。

主食はジャガイモのようで、日本で言うお米の代わりのような役割をしていました。調理方法も様々で、ペーストにしたものや切ってピザに入れたもの、ポテト団子のようなものなどがありました。厳しい環境でも育ちやすいジャガイモが主食なのは、戦争や飢饉といった歴史的背景があるからで

はないかと感じました。また、家庭料理には味付けがあまりなく、ステーキやフライなどもほとんどプレーンのまま食べました。サラダに使われる野菜やドレッシングも日本のものとはかなり異なっていて、食文化という面においては日本とは似ても似つかないといった印象を受けました。米の代わりにジャガイモのせいか、量はそれほど多くなく、個人的にはちょうどいいボリュームでした。

Buildings

石畳の市街中心部付近には、いかにもヨーロッパらしい荘厳かつ繊細に造られた建物がそこら中にそびえ立っていました。

500年以上も前に建てられたとされるアウクスブルク大聖堂は、ロマネスク様式と



写真：アウクスブルク大聖堂

ゴシック様式が併存していて、「予言者の窓」と呼ばれているステンドグラスは、完全な形で残るステンドグラスとして世界最古のものと言われています。



写真：シェッツラー宮殿内の絵画。人生の儚さが表されている。

ほかにも、シンデレラ城のモデルになったとされるノイシュバンシュタイン城をはじめ、アウクスブルク市庁舎の黄金の間、マリ・アントワネットがバルコニーでトランペットを吹いていたとされるシェッツラー宮殿、たくさんの教会や聖堂を訪れました。十字架に向かってひたすらに祈りを捧げるキリスト教信者を見て、日本ではあまり縁のなかった世界を知ることができたとともに、信者にとっての神イエスの存在は現代においても計り知れないものであると確認することができました。

なかでも、ミュンヘンを訪れた際に、駅を降りてすぐの場所にあるマリエン広場の中の新市庁舎のドイツ最大の仕掛け時計には心を打たれました。毎日11時と12時(夏場は17時)に鳴って動きだすからくり人

形と音楽に息をのみました。



写真：マリエン広場、新市庁舎

高さ 85m の場所に人間とほぼ同じ大きさの人形が 32 体動くこの仕掛け時計は、1867 年～1909 年にかけて建設されました。19 世紀の日本では成しえなかった高い技術がすでにヨーロッパにはあったんだと認識しました。まさに町全体が中世の都市のようで、教会や聖堂の内部も、細部まで信じられないほど繊細に造られており、異国情緒を感じずにはいられないほどおしゃれで荘厳でした。

Curriculum

ドイツの教育課程は、日本とは完全に別物でした。満 6 歳に達している子供は、初等教育として小学校に 4 年間だけ通います。その後、成績によって、5 年制の基幹学校（主として卒業後に就職して職業訓練をうける人が進む学校）、6 年制の実科学校（主として卒業後に職業学校に進む人や中級職に就く人が進む学校）、8 年制もしくは 9 年制のギナシウム（主として大学進学者が進む学校）の 3 つに分かれています。日本で

いう小学校 4 年生という、かなり早い段階で将来の進路が決定されてしまうため、この制度は不合理であるとの批判もなされているそうです。私のホストファミリーも、基幹学校に通って早くに仕事に就くのと、大学まで卒業するのとでは、職種や能力面においてかなりの差が出てくると言っていました。

また、アウクスブルクの小学校には 100 を超える国と地域から多種多様な子供たちが来ていて、その授業風景は日本ではあり得ないものでした。ブロンドヘアー、ムスリム（イスラム教信者）で頭にヒジャブを巻いた子、額に赤い印をつけたインドの少女、アフリカ系の男の子、たくさんのピアスを装飾している子など多種多様でした。もちろん、私たち日本人とかなり近い顔立ちをしたアジア人もいました。このようにあらゆる地域の子供たちが一つの教室の中に座っている光景は神秘的で、みんなで合唱を披露してくれたときはどこに目をやればいいのか困りましたが、みんな一生懸命で感動しました。



写真：社会福祉施設「フッゲライ」

Human nature

ヨーロッパの国となると、日本と比べて比較的治安の悪いのではないかというイメージがありますが、ドイツ、特に私が訪れたバイエルンは、かなり平和で、かつ陽気な人が多く、非常に過ごしやすい場所だと感じました。しかし、大学の図書館に入館する際に手荷物やアウターを預けなければならなかった時に、少し日本とは勝手が違うことを感じました。

また、時間を守るという感覚が日本人以上に国民一人一人に浸透していて、私自身、集合時間に遅れないよう毎朝 15～20 分近く早めにホストファミリーと行動をしました。



写真：自家用車のスピードメーター

Feature part

ドイツは、世界的にも有名な自動車メーカーが多く、audi, BMW, Volks Wagen, Mercedes Benz, PORSCHE などの高級車が悠々と走っているのを見てとても興奮したのを覚えています。世界的にも有名な速度無制限（全区間ではない）の高速道路、Autobahn を走れるように設計されたドイツ車のエンジンは強力で、スピードメーターは 240km/h まであり、高速道路に乗るときは緊張すら覚えるほどでした。



写真：ミュンヘンのマーケット

終わりに

短い期間でしたが、ここに述べたこと以外にもたくさんの気づきや発見がありました。ドイツ語で話せる言葉はありがたいくらいでしたが、現地の方はそれ以上にコミュニケーション能力が高く、社交的だったため会話をするのが楽しかったです。また、私のホストファミリーは英語やスペイン語まで習得していて、さらには現在日本語を習得するために日本に一年間留学しています。片言の英語ですら話せない私にとって、大きなモチベーションになったとともに、尊敬できる人物に出会えたという、出会いの面でも貴重なものとなりました。

この経験をただ行って来ただけで終わらせるのではなく、自分の将来の視野をワールドワイドに持ち、尼崎市の青年使節団として何をしてきたのかをどこでも話せるようにしっかりとインプットし、今後の言語学習や国際交流につなげていきたいと思います。